



JAPAN WEEKTM

JAPAN WEEK 2014 | **BERN** | 22. BIS 27. OKTOBER
ジャパンウィーク2014 | ベルン市 | 10月22～27日

スイス政府観光局
www.myswiss.jp

BERN 

 Stadt Bern



150  
Diplomatic Relations
Switzerland-Japan
日本・スイス国交樹立 



ご挨拶

スイスでは初めてジャパンウィーク®が開催され、また、日本・スイス国交 150 周年という記念年に首都ベルンで開催されました。日本からスイスへは年間約 30 万人が訪れます。参加された皆様は、スイスの自然、風光明媚な景観を楽しみ美しく清潔な国という印象を持ち帰られたことと思います。スイスは、4 か国の国々に囲まれ、地域により日常の言語も異なる永世中立国、そして EU とも一線を画し独自の道を歩んできた国です。国民性も保守的で他国の文化を安易に受け入れず、自国を愛し、国産品は自国で消費するという考え方がいまだに残っております。日本においてもスイス人の特性を知っている方は、そう多くはなかったでしょう。一方スイスから日本へは、年間 2 万 5 千人ほどで、スイス国民は、スイ

と同様素晴らしい自然や優れた文化を持つ日本をあまり知りません。このような中、両国間の国際交流及び相互理解をする「第 39 回ジャパンウィーク® 2014 年 スイス・ベルン」が 10 月 22 日から 27 日までの 6 日間開催され、日本から 61 団体 1,264 名、スイスから 6 団体 113 名の参加をいただきました。また、参加団体の皆様は舞台公演、展示・実演、そして、ベルン関係団体への訪問交流を通じ、草の根レベルでの双方の交流が行われました。ベルン市民をはじめスイスの皆様には舞台・展示会場へ多数来場いただき、交流の輪が広がりました。両国の皆様におかれましては、ジャパンウィーク®を通じこの度の交流経験が人生の 1 ページになれば幸いです。

イベント概要

- 開催地** スイス連邦・ベルン市
- 開催期間** 2014 年 10 月 22 日 (水) ~ 10 月 27 日 (月) 6 日間
- 開催規模** 日本側参加者 1,264 名、スイス側参加者 113 名 見学者約 14,000 人
- 主催** 公益財団法人国際親善協会、スイス連邦ベルン市
- 後援** 在スイス日本国大使館、国土交通省、文部科学省、スイス政府観光局、ベルン観光局、日本政府観光局 (JNTO)、独立行政法人国際交流基金、日本貿易振興機構 (JETRO)、一般財団法人自治体国際化協会、一般財団法人地域伝統芸能活用センター、社団法人日本海外協会
- 助成** 公益財団法人 双日国際交流財団
- 協賛** 日本航空株式会社、損害保険ジャパン日本興亜株式会社、株式会社みずほ銀行、西日本旅客鉄道株式会社、東海旅客鉄道株式会社、株式会社日本旅行
- 目的** 「ジャパンウィーク®」は、日本の生活文化、芸能、美術、音楽、ファッション、食文化、スポーツ、経済等を通じて日本を紹介するとともに、開催地住民も参加し、相互理解・友好親善を図る市民レベルの国際文化交流事業です。この「ジャパンウィーク®」は、各会場での公演、展示、実演などによって構成されていますが、一方通行の文化紹介にとどまることのないよう、開催地の人々の参加を促し、心と心がふれあう交流を実現できるワークショップ等のプログラムづくりにも力を入れている点にその特徴があります。

参加団体一覧

北海道	北海道大学合唱団／合唱		箏曲寿都音会／箏・尺八
宮城県	株式会社新澤醸造店／日本酒「伯楽星」のご紹介		師勝太鼓「鼓っつ」／和太鼓
栃木県	津軽三味線貢清世会／津軽三味線		中京大学 晴地舞／よさこい
埼玉県	川越市合唱連盟／合唱		草木染工房しかり／草木染
	剣伎衆かむみ／殺陣パフォーマンス	三重県	羽津の未来を考える会／土鍋・鍋料理
	小林未都／ピアノ弾き語り	滋賀県	湖南旭城会／琵琶
東京都	全日本婚礼美容家協会／着物ショー		“紫水苑” 香袋教室／香袋
	法政大学 YOSAKOI ソーランサークル鳳遙恋／よさこい	京都府	いけばな rime flower／生け花
	きものレディ着付学院／着物ショー		裏千家 青松会 花椿／茶道
	早稲田ちんどん研究会／ちんどん	大阪府	八尾音／合唱
	株式会社 アートクロス／美術品展示		和萌会／日本舞踊
	玉井京子／現代アート		西日本友好親善訪問団／交流
	キャラクター工房 MIYABI／歌舞伎キャラクター イラスト	兵庫県	彩華会／水墨画
	俳画 優美会／俳画	奈良県	奈良県／奈良県観光 PR
	赤坂なでしこ会／木目込人形		花柳アカデミー／日本舞踊
	文化服装学院 生涯学習センター／服飾	和歌山県	シャルレモリモトファミリーズ／エイサー太鼓
	早稲田大学書道会／書道	岡山県	株式会社ニッカリ／運搬機「モノラック」の紹介
	松和会／茶道	徳島県	ふれあい座／人形浄瑠璃
	2014年プラドゥ・ジャパン海外セミナー／見学	福岡県	九州フレッシュメンコア・パステリアポプリ／合唱
神奈川県	藤永会／三味線		和の音／コンテンポラリーダンス
	増田厚司／箏		一般社団法人 お茶結びプロジェクト／煎茶・だし
	Japanese Garden Art Club／日本庭園の紹介		日本旅行協定旅館ホテル連盟九州支部連合会／旅館のおもてなし
	SHUHALLY／茶道	熊本県	国際倶楽部／書道・折り紙
長野県	結音の会／琴	沖縄県	八重山古典音楽研究会／三線・八重山民謡
	八幸会／尺八	スイス	Musikschule Konservatorium Bern (音楽学校)／吹奏楽
	和太鼓 TOKARA／和太鼓		Fabian Baur (Jazz Pianist)／ピアノ
	ユカイナ倶楽部／ユカイナ (木製オカリナ)		shizuku GmbH／日本酒の紹介
静岡県	浜松・花蝶ちゃん／ちんどん		Japantours／日本の新観光地紹介
	煎茶道静風流／茶道	その他	Peace Youth Team／空手
愛知県	こやま会／琴・尺八		日本政府観光局 (JNTO)／日本紹介
	太鼓衆 翔鼓／和太鼓		見学団体 5団体
	愛知淑徳大学ウィンドオーケストラ／吹奏楽		

合計 67 団体 1377 名 (うちスイス・海外 6 団体 113 名)

実行委員会

日本側	
実行委員長	愛知 和男 元衆議院議員／公益財団法人国際親善協会 会長
名誉顧問	前田 隆平 在スイス日本国大使館 特命全権大使
理事	岡本 保 一般財団法人自治体国際化協会 理事長／公益財団法人国際親善協会 評議員
理事	今村 忠雄 社団法人日本海外協会 会長／公益財団法人国際親善協会 評議員
理事	真鍋 精志 西日本旅客鉄道株式会社代表取締役社長兼執行役員
理事	二宮 雅也 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 代表取締役社長 社長執行役員／公益財団法人国際親善協会 理事
理事	武井 真剛 日本航空株式会社 本店国際販売部部长／公益財団法人国際親善協会 理事
理事	丸尾 和明 株式会社日本旅行 代表取締役社長／公益財団法人国際親善協会 理事
事務局長	若林 幸宏 公益財団法人国際親善協会 常務理事

(順不同)

スイス側	
実行委員長	Alexander Tschäppät ベルン市長
理事	Jurg Wichtermann ベルン市助役
理事	Markus Lergier ベルン観光局長
理事	Thomas Moser ベルン州官房対外関係特別担当官
理事	Peter Fischer パウル・クレー センター館長



1. ジャパンウィーク® 運営組織について

当事業は日本・スイス両国に各々実行委員会を組織し、日本側は愛知和男公益財団法人国際親善協会会長が実行委員長を務め、スイス側はアレクサンダー・チャペット市長を実行委員長とし、両国事務局互いの協力のもと、開催会場・施設の決定や告知PR活動・イベントの取り纏めなどを推し進めた。特に開催会場・施設については各実施予定プログラムの主旨をベルン市に理解していただき、主なイベント会場を市の中心部にご用意頂いた。日本より都合5回に亘る現地打合せ、電話および電子メールでの情報交換・諸々の折衝を行い相互の協力体制を着々と築き上げ成功へのステップを確実なものにして行った。日本側では2013年の夏より全国に招致活動・告知活動を開始し、並行して関係資料の作成・説明会の実施などを行い、参加団体応募の後は各団体と参加プログラム、荷物の輸送の打合せ、各公式行事やイベントプログラムのアレンジなど数多くの業務をこなしてきた。

2. 広報・告知について

現地側広報・告知に関しては、ベルン市、そしてコーディネーターにご協力いただいたおかげで期待通りの観客数であった。下記が関係各機関にご協力いただいた広報・告知活動である。

① メディアでのプロモーション

ラジオ、新聞、ウェブサイト、を中心としたPR展開を実施していただいた。

① 記者会見

9月末にはスイス側はアレクサンダー・チャペット市長、日本側は在スイス日本国大使館の前田 特命全権大使にジャパンウィーク®の記者会見を開催していただいた。

② ラジオ

「SFS」（スイス唯一の国営放送局）がベルン市のジャパンウィーク®担当責任者であるMs. Manuela Angstを取材し、10月22日（水）のオープニングフェスティバル時には当財団スタッフにインタビューをしたものを同日の17:30からのSFS1チャンネルのベルン並びに近郊州向け番組内で放送していただいた。

③ 新聞

9月末には前述の記者会見の様態を「Berner Zeitung」が、ジャパンウィーク®開催直前から開催直後には、再び「Berner Zeitung」、「Der Bund」、「20minuten」、「Blick am Abend」がジャパンウィーク®紹介の記事を掲載していただいた。

④ 雑誌

ジャパンウィーク®開催前に「Magazin bärn!」、「KunstEINSICHTBern」、「SWISS Magazin」、「CULTURESCAPES」、「Travelhouse」がジャパンウィーク®紹介の記事を掲載していただいた。

⑤ ベルン市独自のウェブサイト

9月はじめより、ベルン市独自のウェブサイトを活用してプロモーションに努めていただいた。そしてそのウェブサイトより劇場の予約ができるシステムを構築していただいた。

② PRツール作成およびその配布

下記が10月初旬よりベルン市内に配布された。

- ① 街中での告知用大ポスター（895×1280cm） 44枚
- ② 街中での告知用中ポスター（A3サイズ） 106枚
- ③ 街中での告知用小ポスター（25×35 cm） 245枚
- ④ 告知用リーフレット 3,000枚
- ⑤ 告知用カード 6,000枚





3. 各イベントプログラム

ジャパンウィーク®の大きなテーマは「双方向の交流」である。日本側のみの参加だけでなく舞台公演、展示・実演についてスイス側からの団体にも参加していただき、舞台公演出演者、展示者間の交流が深まるようイベント作りをした。

イベントは10月22日(水)の12:00よりヴァイセンハウスプラッツの特設ステージにてオープニングフェスティバルが開催されジャパンウィーク®の幕があけた。24日(金)にはベルン市側が日本からの参加者を歓迎するウェルカムセレモニーが大聖堂にて、ウェルカムレセプションがコルンハウスケラーにて実施された。舞台公演は22日(水)夜からパウル・クレー センター内での舞台公演がスタートし、26日(日)まで毎日開催された。また25日(土)と27日(月)にはカジノにおいても開催された。展示・実演は23日(木)のリボンカッティングセレモニーに始まり、27日(月)まで実施された。交流プログラムの学校訪問については7団体、老人クラブは5団体、テーマ別の交流プログラムについては9団体が参加し、各団体ともに肌と肌をふれあう心のこもった草の根交流に大感激していた。毎年参加いただいている西日本友好親善訪問団は、交流イベントおよびベルンナイトにて大いに親善交流の輪を広げて貰った。

4. 在スイス日本国大使館のご協力とボランティアの活躍

特に今回のジャパンウィーク®が大盛況に終えることができたのは一重に公式行事にご臨席賜りました在スイス日本国大使館 前田特命全権大使をはじめ大使館の皆様のご協力による賜物であります。また、今回も数多くのボランティアの方々に協力して頂いた。ジャパンウィーク®スタッフの一員として朝早くから夜遅くまで本当に頑張っていた。ボランティアの方々の協力無くして、ジャパンウィーク®の成功はありえなかったと言っても過言ではありません。

5. スタッフおよびご協力いただいた方々

ジャパンウィーク®開催が決定してからイベントが終了するまで、下記の方々は、実務上のきめこまやかな打ち合わせと準備で大変ご協力いただき、今回のジャパンウィーク®を成功へと導いた。

ベルン市

Ms. Manuela Angst (ベルン市渉外部長)

Ms. Lea Schlunegger (ベルン市ジャパンウィーク® 交流プログラム担当)

Mr. Jürg Wichtermann (ベルン市助役)

パウル・クレー センター

Ms. Kerstin Härtel (パウル・クレー センタープロジェクト責任者)

カジノ

Ms. Lea Periat (カジノ業務部長)

ベルン観光局

Mr. Marc Steffen (ベルン観光局マーケティングマネージャー)

コーディネーター

坪川 真吾

Support Our Kids



オープニングフェスティバル



日時 2014年10月22日(水) 12:00 ~ 14:00

場所 ヴァイセンハウスプラッツ (Waisenhaus Platz)

観客数 約1,200名(屋外)

日本側 愛知和男 会長、前田隆平 在スイス日本国大使館特命全権大使、東條宏史 損害保険ジャパン日本興亜株式会社専務執行役員、武井真剛 理事、丸尾和明 理事、若林幸宏 常務理事

スイス側 Alexander Tschäppät ベルン市長、Jürg Wichter mann ベルン市助役、Markus Lergier ベルン観光局長

参加者 和太鼓 TOKARA、中京大学 晴地舞、剣伎衆かむみ、増田厚司、浜松・花蝶ちゃん、法政大学 YOSAKOI ソーランサークル鳳遙恋、太鼓衆 翔鼓

和太鼓 TOKARA によるジャパンウィーク®のオープニングにふさわしい太鼓の演奏によって、このフェスティバルスタート気運が高まったところでセレモニーと続き、愛知会長の「開会宣言」でジャパンウィーク®・イン・ベルンの幕が切って落とされる。

再び和太鼓 TOKARA の気合いの入った演奏でスタート。中京大学晴地舞の若さあふれるエネルギッシュなよさこい、剣伎衆かむみのスペクタクル剣伎ショーと続き、増田厚司と和太鼓 TOKARA の箏と和太鼓のコラボレーションには大きな拍手が送られていた。浜松・花蝶ちゃんのちんどんパフォーマンスは、そのコミカルなコスチュームとパフォーマンスでいつも人気で、今回も盛んに拍手が送られていた。次は法政大学 YOSAKOI ソーランサークル鳳遙恋がよさこいソーランを舞台下で披露、その統制の取れたエネルギッシュでテンポある踊りを観客は取り囲み魅了していた。最後は、太鼓衆翔鼓の喜びあふれる和太鼓演奏でオープニングフェスティバルを締めくくる。一時あられがばらつく非常に寒い曇り空の中にもかかわらず、多くの観客は最後まで帰ることなく、温かい拍手を送っていた。





ウェルカムセレモニー

日 時 2014年10月24日(金) 16:30～17:30

場 所 ベルン大聖堂 (Bernier Munster)

参加団体 35団体

日 本 側 愛知和男 会長、前田隆平 在スイス日本国大使館特命全権大使、
東條宏史 損害保険ジャパン日本興亜株式会社専務執行役員、
武井真剛 理事、丸尾和明 理事、若林幸宏 常務理事

ス イ ス 側 Alexander Tschäppät ベルン市長、
Jürg Wichter mann ベルン市助役、Markus Lergier ベルン観光局長、
Thomas Moser ベルン州官房対 外関係特別担当官、
Peter Fischer パウル・クレー センター館長

参加者の入場と同時にパイプオルガンの演奏が始まり、会場が厳かな雰囲気にも包まれた。セレモニーは両国の実行委員会出席者および奈良県の副知事を含めたご来賓の紹介の後、アレクサンダー・チャペット ベルン市長の歓迎の挨拶でスタートし、その後前田 特命全権大使、愛知会長のスピーチと続いた。スピーチ終了後には、ベルン市長、愛知会長によるプレゼント交換が行われた。そしてベルン市長、前田大使、愛知会長により、参加証書が各出席団体代表に手渡された。式典が終了する直前には東日本大震災で被災した東北の子供たち6人 (Support Our Kids) が壇上に上がりお礼と前向きに生きてゆく決意の一言をいただいた。セレモニー終了後、参加者はパイプオルガンの演奏される大聖堂を後にしてウェルカムレセプション会場へと移動した。



ウェルカムレセプション

日 時 2014年10月24日(金) 18:00～19:30

場 所 コルンハウスケラー (Kornhaus Keller)

参加団体 33団体

ウェルカムレセプション会場の入口近くではアルペンホルン奏者、会場内ではアコーディオン奏者が心わくわくする音楽を奏でて参加者を歓迎した。参加者は各自飲み物を受け取り、一同揃ったところでベルン市長が乾杯の音頭をとった。参加者は用意された飲み物やカナッペ等を楽しみ、歓談のひとときを過ごした。ジャパンウィーク®の公式行事としてとても華やかなプログラムであった。



舞台公演

10月22日(水)～26日(日)はパウル・クレー センター (Zentrum Paul Klee)、10月25日(土) および27日(月)はカジノ(Kultur Casino)にて行われた。「舞台公演」の予約業務はベルン市が9月初めからスタートしていたが、本番前に万全の準備が整った。また、各参加団体の演技終了後の感動と感激に満ち溢れた表情で、このイベントの成功を劇場公演で確信した。大喝采、時にはスタンディングオベーションもあり、観客は十分に楽しみ大満足し、公演は大成功のうちに幕を下ろした。ベルン市民の皆様にご感謝の気持ちでいっぱいである。

パウル・クレー センター (Zentrum Paul Klee)



日 時 10月22日(水) 19:00～22:05

観客数 約280名

参加者 中京大学 晴地舞、和の音、Peace Youth Team、
浜松・花蝶ちゃん、増田厚司 & Mr. Fabien Bauer、
剣伎衆かむみ featuring 小林未都、和太鼓 TOKARA

劇場公演の初日。中京大学 晴地舞のよさこいで幕を開ける。若さとエネルギーがすばらしい。続いて和の音、コンテンポラリーダンスー藤城の踊る、鍛え抜かれたソロ・パフォーマンスは見事であった。次に、Peace Youth Teamは、イスラエル、アラブ地域混合の子供達の空手チームによる空手パフォーマンス。空手を通して平和を願う思いの強いシャープなパフォーマンスに大きな拍手が送られていた。続いては、浜松・花蝶ちゃんの温かみを感じさせるちんどんパフォーマンスは、観客を和ませてくれた。休憩をはさんで、プロの箏奏者 増田厚司と地元ベルンのジャズピアニスト Fabien Bauerとのコラボ演奏、それは感動的で観客を魅了していた。次は剣伎衆かむみ featuring 小林未都のパフォーマンス。ダイナミックな殺陣の動きと透き通った小林未都の歌声は観客を惹きつけた。初日最後は、和太鼓 TOKARA の隙のない力強い和太鼓演奏で幕を降ろす。質の高い出演者に観客も大満足、初日が無事終了。

日 時 10月23日(木) 19:00～21:55

観客数 約270名

参加者 八幸会、結音の会、湖南旭城会、和萌会、
八尾音、藤永会、法政大学YOSAKOI
ソーランサークル鳳遙恋、太鼓衆 翔鼓

劇場公演2日目。最初は八幸会と結音の会合同での箏と尺八の演奏、澄み渡る尺八と箏のハーモニーに観客はうっとり聞き惚れていた。続いては湖南旭城会の琵琶の演奏と語りは、力強く張りのある琵琶の響きが印象的であった。そして和萌会による艶やかな日本舞踊と、八尾音ののびやかな合唱で前半を締めくくる。後半は、藤永会が三味線の粋な音色で観客も知っているメロディーを奏でて心に響く演奏でスタート。続いて法政大学YOSAKOIソーランサークル鳳遙恋のよさこいソーラン。そのはち切れんばかりのエネルギーと躍動感は圧巻であった。最後は、太鼓衆 翔鼓の和太鼓演奏。大人数で打つ迫力のある太鼓のリズムに観客からは大きな拍手が沸き起こった。

日 時 10月24日(金) 19:00～21:30

観客数 約300名

参加者 増田厚司、八重山古典音楽研究会、
きものレディ着付学院、こやま会、
師勝太鼓「鼓つつ」

増田厚司の箏の演奏で幕を開ける。箏のソロ演奏であれだけの幅と深みのある演奏テクニックは圧巻であった。続いて八重山古典音楽研究会の琉球音楽の披露。独特の旋律が心地よく、じつと聞き入っていた。次にきものレディ着付学院の着物着付け舞の披露。音楽に乗って舞いながらテンポよく着物を着上げてゆく姿は見事であった。休憩をはさんで後半は、こやま会の箏と尺八の演奏でスタート。息の合った素晴らしい演奏を聞かせてくれた。最後は、師勝太鼓「鼓つつ」の和太鼓演奏。観客と楽しみ、和ませてくれるその演奏に、温かい拍手が送られていた。

日 時 10月25日(土) 17:00～19:20

観客数 約350名

参加者 ふれあい座、津軽三味線貢清世会、
早稲田ちんどん研究会、
和太鼓 TOKARA

今日も客席はほぼ満席。ふれあい座の人形浄瑠璃で幕を開ける。初めて目にする人形の細かい動きと、叙情的な浄瑠璃に観客の心は舞台に強く惹きつけられていた。後半最初は津軽三味線貢清世会。津軽三味線・箏・太鼓・ヴァイオリンのアンサンブルによる調和ある演奏は素晴らしく、スイス国歌の演奏に観客は驚き笑顔を見せた。続いて早稲田ちんどん研究会のコミカルな衣装と独特なちんどんパフォーマンスはいつも人気の的、たくさんの拍手をもらっていた。最後は、和太鼓 TOKARA のエネルギーで力強い和太鼓演奏で幕を降ろす。

日時 10月26日(日) 17:00～19:10

観客数 約300名

参加者 全日本婚礼美容家協会、花柳アカデミー、
剣伎衆かむみ featuring 小林未郁

客席は満席。最初の演目は、全日本婚礼美容家協会による着物ファッションショー。モデルの大部分を地元の若い女性がつとめ、美しく変身したその姿に、盛んな拍手が送られていた。十二単を一枚ずつ着付けてゆくシーンに観客の目が釘付けになっていた。次に花柳アカデミーの華やかな着物と美しい伝統的な日本舞踊は観客を魅了した。後半は観客の心を掴んでしまう伸びのある小林未郁の歌声、そして剣伎衆かむみの迫力ある殺陣に、拍手が鳴り止まなかった。パウル・クレセンターでの舞台最終日の幕が無事降りました。



カジノ (Kultur Casino)



日時 10月25日(土) 19:00～21:55

観客数 約600名

参加者 シャルレモリモトファミリーズ、
川越市合唱連盟、八尾音、和萌会、
北海道大学合唱団

前半は、総勢80名からなるシャルレモリモトファミリーズの舞台。色鮮やかな衣装と力強いエイサー太鼓を始め武道や踊りなど多彩な沖縄文化を、観客は十二分に堪能した。後半は、合唱3グループの公演。最初は川越市合唱連盟の女声コーラス。その層の厚さからくる質の高いコーラスを聴かせてくれた。続いては八尾音の女声コーラス。伸びのある美しい歌声と艶やかな浴衣姿の演出が素晴らしく、和萌会の日本舞踊も華をそえた。最後は北海道大学合唱団の男声コーラス。アカペラによるコーラスは声のパワーとハーモニーが心地良く、観客からは大きな拍手が送られていた。



日時 10月27日(月) 19:00～22:05

観客数 約600名

参加者 愛知淑徳大学ウィンドオーケストラ&
Musikschule Konservatorium Bern、
箏曲寿都音会、九州フレッシュメンコア・
パスティアポプリ、小林未郁、
和太鼓TOKARA

劇場公演そしてジャパンウィーク®最終日。1階席ほぼ満席、2階バルコニー席にも多くの観客の姿が見られた。最初の演目は、愛知淑徳大学ウィンドオーケストラの吹奏楽演奏。ベルンの音楽学校Musikschule Konservatorium Bernの学生50名が加わっての合同演奏は、前日と当日数時間のリハーサルにも関わらず、素晴らしい息の合った演奏を聴かせてくれた。後半は、箏曲寿都音会の演奏でスタート。ホールに箏と尺八の美しい音色が心地よく響き渡った。次に九州フレッシュメンコア・パスティアポプリのやわらかなハーモニーを感じさせる混声合唱は、観客と一体となる演出で盛り上がった。続いて小林未郁はピアノの弾き語りでその魅惑的な艶のある歌声を聴かせてくれた。最後は、和太鼓TOKARAのリズム感あふれたパワフルな演奏に観客はスタンディングオベーション。拍手と歓声の中ジャパンウィーク®を締めくくる。観客は十分に楽しんで、大満足だったと感じた。ベルン市民の皆様ありがとうございます！

浜松・花蝶ちん



中京大学 晴地舞



法政大学YOSAKOIソーランサークル鳳遙恋



太鼓衆 翔鼓



増田 厚司



和太鼓 TOKARA



剣伎衆かむる featuring 小林未郁



和の音



湖南旭城会



八幸会・結音の会



藤永会



八尾音



和萌会



こやま会



きものレディ着付学院



八重山古典音楽研究会



師勝太鼓「鼓っつ」



シャルレモリモトファミリーズ



川越市合唱連盟



北海道大学合唱団



ふれあい座



津軽三味線貢清世会



早稲田ちんどん研究会



花柳アカデミー



全日本婚礼美容家協会



愛知淑徳大学ウィンドオーケストラ



九州フレッシュメンコア・パスティアポリ



箏曲寿都音会



Peace Youth Team



コラボレーション

増田厚司 × Fabian Baur



愛知淑徳大学ウィンドオーケストラ × Musikschule Konservatorium Bern



野外宣伝パフォーマンス

浜松・花蝶ちは10月22日、早稲田ちんどん研究会は10月23日ベルン市内をちんどん演奏しながら練り歩き、ボランティアスタッフとともにジャパンウィーク®PRの告知用カードを配り、イベントを大変盛り上げていただいた。



EN 1 → Weiss geschminkte Musiker treten am Morgen in der Stadt unsicher. Ihre Leidenschaft: Die «Japan Week» hat begonnen.

Japanische Musik

Man kann sich erstaunlich schnell an Bergepflegenheiten anpassen. Die Gruppe namens Yamamatsu Hanna Choro erschien mit rund 15 Minuten Verspätung zum Start der «Japan Week». Dabei sagt man den Leuten aus dem asiatischen Land doch nach, kühnlich zu sein. Aber es gilt halt: «Nume nid räng!»

Yamamatsu Hanna Choro ist eine sogenannte Chingdong-Gruppe, die aber nicht gebürtig ist. Solche Truppen sind eine traditionelle Form der Werbung,

Für eine Woche ist Bern japanisch

Yamamatsu Hanna Choro
Die Gruppe sagt nett «Sayonara».

etwa, wenn irgendwo ein neuer Laden aufging. Weiss geschminkt – wie die Geishas – musizieren sie mit Saxofon und Trommel.

Doch in Bern ging es nicht um einen neuen Shop, sondern um die «Japan Week». Am Mittag wurde die Veranstaltung auf dem Weisenhausplatz offiziell eingeleitet – mit Reden von Stafi Alexander Tschoppit und Japans Botschafter Ryuei Maeda.

Bis Montag gibt es zahlreiche Veranstaltungen mit Nippon im Fokus. Tee-Zeremonien und Einführungen in Ikebana (Blumenstecken) oder Kalligraphie im Klee-Zentrum, Abende mit Musik und Puppenspiel im Kultur Casino. Die Plätze sind knapp. Hintergrund der Feier ist das 150-Jahr-Jubiläum der diplomatischen Beziehungen zwischen den zwei Ländern. ● Informationen und Anmeldung: www.bern.ch/japanweek2014

展示・実演

日 時 2014年10月23日 (木) ~27日 (月)

場 所 パウル・クレー センター (Zentrum Paul Klee)

ベルン旧市街の東側の小高い丘の上に位置し、半生をベルンで過ごした画家パウル・クレーの美術館でもある、市民に愛されている多目的施設パウル・クレー センター内の展示会場で開催された。会場では日本からの参加者による実演も行われ、大変多くの来場者で賑わった。また舞台公演も同じ建物内で行われ、公演の参加者も展示会場に来場され、出展者と交流していた。



リボンカッティングセレモニー

日 時 10月23日 (木) 09:30~10:00

場 所 パウル・クレー センター (Zentrum Paul Klee)

観 客 数 約200名

日 本 側 愛知和男 会長、前田隆平 在スイス日本国大使館特命全権大使、武井真剛 理事、丸尾和明 理事、若林幸宏 常務理事

ス イ ス 側 Alexander Tschäppät ベルン市長、Jürg Wichtermann ベルン市助役、Peter Fischer パウル・クレー センター館長

展示会場の前のロビーにてセレモニーは行われた。セレモニーは両国の実行委員会出席者紹介の後、最初にベルン市長Alexander Tschäppät、次に前田隆平 在スイス日本国大使館特命全権大使、最後に愛知和男 会長よりスピーチが行われた。その後展示・実演に参加する各団体が読み上げられ、各代表者を中央にお呼びして、プロフィールをご紹介した。リボンカット終了後ベルン市民に会場はオープンされた。



ユカイナ倶楽部

木で作られた四角いオカリナを多数展示していただいた。会場内でのミニコンサートは、多くの方が足を止めて聴き入り、大盛況であった。小さな子供から大人まで、簡単に吹くことができるので来場者はとても楽しそうに体験していた。



彩華会

水墨画の軸物4点、色紙4点を展示していただいた。先生による実演では、筆一本で様々な作品を作り出す姿に来場者は興味津々で真剣に見つめていた。来場者による実演では、先生らとコミュニケーションを取りながら作業を行い、貴重な体験ができた。



玉井京子

金属・和紙・粘土などの素材を用いて独自の世界を表現した壁掛作品4点、床置作品8点を展示していただいた。ボランティアを通じ、来場者からの質問にも積極的にお答えいただき、良い文化交流ができていた。ご自身が大好きなパウル・クレーを近くで感じ、楽しんでいた様子であった。



草木染工房しかり

草木染で染められた着物や文字などの作品の他、染料となる原材料など複数展示していただいた。来場者の関心は非常に高く、手法などについての説明に対し熱心に耳を傾けていた。来場者の中にはスイスで染めものを行っている方もおり、展示会場に来てよかったと喜びの声も聞こえた。



■ “紫水苑” 香袋教室

日本の四季の花や干支など、100点を超える香袋の作品を展示していただいた。一針一針手縫いされた作品の繊細さ、美しさに来場者は感心していた。香袋と一緒に作る実演では、皆様楽しそうに体験しており、休む間もないほどの人気であった。



■ 羽津の未来を考える会

土鍋を展示していただき、日本の鍋文化についてご紹介いただいた。DVD映像や写真を通じて、冬の代表的な日本食である鍋についてのお話や、鍋パーティなど日本独特のコミュニケーション方法についてお話いただいた。来場者の関心度も高く、多くの人が立ち止り質問をしている姿が見られた。



■ 一般社団法人 お茶結びプロジェクト

和食文化として「おだし」、「お茶」について展示実演をしていただいた。「お茶」実演では、ほうじ茶、煎茶などを来場者に提供し、きき茶を行っていた。楽しみ味わいながら日本文化を体験することができ、来場者に非常に喜ばれていた。お茶やお茶菓子が予定より早くなくなるほど大人気であった。



■ Japanese Garden Art Club

日本庭園に関する手技、道具、造園プロセスについての紹介パネルや庭園で使用される閑守石（せきもりいし）などを展示していただいた。来場者は熱心に説明を聞いてた。閑守石の結び方体験の実演も少し難しかったようであるが、楽しんでた。



■ 国際倶楽部

書道や折紙などを通じ来場者に日本文化をご紹介いただいた。書道体験では来場者の名前を漢字で書きプレゼントされていた。また、和柄のミニ傘と一緒に作るコーナーもありとても好評だった。絶えず体験者が訪れ人だかりとなっており非常に人気であった。



■ キャラクター工房 MIYABI

歌舞伎キャラクターのデザイン画を多数展示していただいた。実演の歌舞伎キャラクターぬり絵体は、特に子供たちに大人気でぬり絵とともにプレゼントされたキャラクターの絵はがきは非常に喜ばれていた。



■ いけばな rime flower

嵯峨御流の特徴的な「御題花器（おだいかき）」を用いた4つの生け花作品をご披露いただいた。生け花はとても人気で、来場者は写真を撮るなど熱心に興味深く鑑賞していた。生け花アレンジの実演では、体験者の手を取り丁寧に教えていただき、とても楽しそうに学んでいた。



■ 赤坂なでしこ会

日本の伝統工芸である「木目込人形」や押し絵などを多数展示いただいた。おひなさまや干支など日本独特の制作方法で作られた作品たちに来場者からの質問も多く、丁寧に説明をしていただいた。きめ細やかな作業にみな驚き感心していた。



■ 俳画 優美会

掛け軸、色紙、絵はがき、せんすなど多くの俳画作品を展示していただいた。文字と絵で表現をする俳画の世界に来場者は興味津々の様子で説明を熱心に聞いていた。一つ一つ、手書きされた箸袋を来場者にプレゼントされ、とても喜ばれていた。



■ 株式会社新澤醸造店

食事をより楽しく、より美味しくという究極の食中酒をコンセプトとした日本酒、「伯楽星」を来場者にふるまっていた。非常に貴重な日本酒であり、味も素晴らしいので人が絶えず大盛況であった。美味しいお酒に来場者の方たちも満足そうな笑顔だった。



■ 日本旅行協定旅館ホテル連盟九州支部連合会

日本旅館の「おもてなし」について写真や映像を使ってご披露いただいた。女将による浴衣の着付け体験は、来場者にも新鮮だったようで、体験者らは楽しそうに写真を撮りあっていた。さらに、着付けをした浴衣をそのままプレゼントされ、体験者は感激していた。会場内に浴衣を着た方が多数おり、会場が華やいだ。



■ 文化服装学院 生涯学習センター

着物をリメイクしたドレスや日本の伝統技術を駆使した織物作品などを多数展示していただいた。実演では、織機による実演やきめ細かな刺繍を施す作業、そして和布を使用し一緒に小物を作る実演などがあり、来場者に非常に好評だった。



■ 奈良県

観光・文化・食などあらゆる方面から奈良県をPRしていただいた。映像による観光地紹介や地酒の試飲、干菓子の試食、さらに特産品である墨や筆など使った習字実演などを行っていただいた。習字では、「夢」や「瑞西（スイス）」などの漢字を来場者は自分たちで書くことができ、とても喜ばれていた。



■ 早稲田大学書道会

書道実演では来場者の名前を漢字で書いてプレゼントされ、来場者はそれをとても大事そうに扱い持ち帰っていた。とても好評で常に人だかりができ、参加者も積極的に来場者に話しかけて交流されていたので、互いに貴重な経験となった。



■ 株式会社ニッカリ

単軌条運搬機「モノラック」を展示していただいた。畑などの急傾斜地で人や物を楽に運ぶことのできる運搬機は、スイスでも需要のある農業機械であり、日本独自の技術をご紹介いただいた。来場者の方は興味を示し、熱心に機械を見つめていた。



株式会社アートクロス

日時 2014年10月23日（木）～28日（火）

場所 パウル・クレール センター（Zentrum Paul Klee）

パウル・クレール センターにて特別展示として「Japan Art Festival in Bern 2014」を開催した。64点の日本美術の作品は5部門に分かれて展示された。家族連れも含めて、多くの市民の方々にご来場いただき、展示された多種多様の美術品を楽しんでいただいた。



現地参加団体

shizuku GmbH



Japantours



日本政府観光局（JNTO）



茶道実演 10月24日 (金)

SHUHALLY

4回の実演を行っていただいた。お点前披露の際には、観覧者の中から数名をステージにお招きして、実際の体験を交えながら茶道の精神や作法について解説をいただいた。お点前の後、希望された方には実際にお茶をたていただくワークショップ形式も大変好評であった。



茶道実演 10月25日 (土)

松和会

6回の実演を行っていただいた。お点前の解説では、作法はもちろん、『おもてなし』の精神について分かりやすくお話ししていただいた。また、生け花の展示も、年代ごとの流行がわかるよう工夫を凝らしていただき、観覧の皆さんに喜んでいただいた。

茶道実演 10月26日 (日)

煎茶道静風流

8回の実演を行っていただいた。ヨーロッパでは、茶道といえば抹茶のイメージが強いところ、紅茶との違いなどを例に挙げながら分かりやすく煎茶についての解説をしていただいた。お点前の後には観覧者から多くの質問を受け、茶道についてだけでなく着物や帯についても詳しくお答えいただいた。



茶道実演 10月27日 (月)

裏千家 青松会 花椿

4回の実演を行っていただいた。お二人での参加にもかかわらず、お茶をたてるワークショップなど盛りだくさんの内容となりました。お茶とお菓子を差し上げる際にご用意いただいた折り紙の籠はとても好評で、折り紙コーナーでリクエストが出るほどでした。



訪問交流プログラム

訪問交流プログラムの学校訪問については7団体、老人ホーム訪問については5団体、テーマ別訪問については9団体が参加し、各団体ともに心と心がふれあう交流を行った。



太鼓衆 翔鼓

学 校

日 時 10月22日(水) 10:00~12:00
学 校 名 Schulhaus Schwabgut
交流場所 集会場
交流対象 学校生徒(12才~16才)120名

太鼓衆 翔鼓は5曲の太鼓演奏を披露した。各曲を演奏する前に1曲づつ生徒たちにどんな曲で日本人にとってどんな意味合いをもつのか説明をした。選ばれた生徒15名づつのワークショップも計3回行われ、生徒たちはとても喜んだ。この交流の参加者は学校の先生も含めてとてもエネルギッシュであり、熱狂的でもあった。

師勝太鼓「鼓っつ」

学 校

日 時 10月23日(木) 09:30~12:00
学 校 名 Schulhaus Pestalozzi
交流場所 集会場
交流対象 学校生徒(8才~12才)40名

師勝太鼓「鼓っつ」が演奏を始めるとその音楽、リズムに合わせて踊り始める生徒もいた。ワークショップでは生徒だけでなく、先生も楽しんでいった。参加者全員にとって、とてもわくわくした楽しい時間であった。師勝太鼓「鼓っつ」から生徒に折り紙、先生方には日本のバンダナのプレゼントもあった。



和太鼓 TOKARA

学 校

日 時 10月23日(木) 15:15~18:00
施設名 Sportzentrum Nippon
交流場所 Sportzentrum Nippon内道場
交流対象 Sportzentrum Nipponの生徒(5才~10才)30名

和太鼓 TOKARAは5才~7才の生徒たち10名に演奏を披露した。そして彼らに太鼓の叩き方を教えた。その後7才~10才の生徒たち20名のためにも演奏を披露し、また彼らにもワークショップを実施した。それぞれの生徒たちはこの機会を笑顔いっぱいにとっても楽しんだ。ティータイムでは、生徒たちは太鼓についてのさまざまな質問をしていた。とても充実した交流プログラムであった

ユカイナ倶楽部

学 校

日 時 10月24日(金) 9:00~10:30

学 校 名 Heilpädagogische Schule

交流場所 集会場、多目的ホール 交流対象 知的障がいをもつ生徒(5才~18才)50名

ユカイナ倶楽部は独特な楽器(木製のオカリナ楽器)「ユカイナ」を用いてスイスに古くから伝わる曲とともに「サウンドオブミュージック」の曲を演奏した。その後生徒たちにユカイナを体験演奏していただき、ギフトのおもちゃをプレゼントした。生徒たちはとても喜び、生徒のひとりにはユカイナ倶楽部のお一人にハグしてそのうれしさを表現した。そして今度は生徒たちが歌を歌っておもてなしをした。とてもほほえましい心温まる交流であった。



彩華会

学 校

日 時 10月24日(金) 9:40~12:00

学 校 名 Schulhaus Pestalozzi

交流場所 工作作業室

交流対象 学校生徒(14才~15才)43名

彩華会は水墨画の説明をした後に、生徒たちにワークショップを体験していただいた。生徒たちは水墨画をとても興味深く、物珍しそうに見ていたがとても一生懸命に練習をしていた。この間生徒たちからは水墨画についてのみならず日本についてのさまざまな質問があり、彩華会の皆様もそれらに答えていた。生徒たち、先生もとても喜び楽しい交流であった。

早稲田大学書道会

学 校

日 時 10月24日(金)10:00~12:00

学 校 名 Schulhaus Schwabgut

交流場所 アートルーム 交流対象 学校生徒(14才~15才)20名

早稲田大学書道会が生徒たちの名前を漢字で書き始めると生徒たちは興味深くその文字を見つめていた。自らの名前を教わりながら漢字で書き始めるとアニメやマンガのキャラクターの名前も書きたいという生徒の希望があり、教わりながら漢字やカタカナで書いた。この交流は生徒たちにとって大変貴重な体験となった。担当の先生も書道の字が美しいのに感動していた。



剣伎衆かむみ featuring 小林未郁

学 校

日 時 10月27日(月) 9:30~11:45

学 校 名 Schulhaus Pestalozzi

交流場所 集会場 交流対象 学校生徒(9才~12才)60名

剣伎衆かむみは最初に殺陣のパフォーマンスを披露した。生徒たちはとても興味深く見つめていた。一人の生徒が代表で剣伎衆かむみの数名のと殺陣のワークショップを生徒たちの前で体験した。その後生徒たち全員がわずかの時間ではあるが刀をもった立ち振る舞いを剣伎衆かむみから学んだ。先生方も数回刀で斬る振る舞いを体験した。この体験は生徒たちと先生方にとってすばらしい思い出となった。

SHUHALLY

老人ホーム

日 時 10月23日(木) 9:15~11:45

老人ホーム名 Burgerspittel Vierfeld 交流場所 集会場

交流対象 老人ホーム入居者20名

SHUHALLYは最初に茶道の原則、信念および道具についての説明をした。そして茶道実演を参加者の前で実施した。秋をモチーフにした和紙とその上には伝統的な和菓子が手渡され、和菓子と共に抹茶を楽しみながら茶道についての質問もした。最後に、SHUHALLYは老人ホーム最上階にて典型的なスイス料理と飲み物を老人ホームスタッフと楽しんだ。



早稲田ちんどん研究会

老人ホーム

日 時 10月24日(金)13:30~15:30

老人ホーム名 Alters-und Pflegeheim Kühlewil 交流場所 集会場

交流対象 老人ホーム入居者50名

早稲田ちんどん研究会は派手な衣装と太鼓やクラリネットによるチンドン演奏を披露した。初めて見るそのパフォーマンスに参加者は微笑みであふれていた。早稲田ちんどん研究会は参加者一人づつに折り紙作品を手渡して喜ばれていた。この交流でとてもすばらしい午後のひとときとなった。

北海道大学合唱団

老人ホーム

日 時 10月24日(金)14:30~15:45

老人ホーム名 Burgerspittel Vierfeld 交流場所 集会場

交流対象 老人ホーム入居者40名

参加者は北海道大学合唱団の美しい合唱の歌声に耳を傾けて楽しんでいった。日本語のみならず英語やドイツ語の歌も披露いただき、その力強く美しい歌声は大絶賛された。予定の曲が終わってもさらなるリクエストがあり、快く応じて歌い続けた。最後に参加者が合唱団にお礼の言葉を伝えた。



九州フレッシュメンコア・パスティアポプリ

老人ホーム

日 時 10月26日(日)14:30~16:30

老人ホーム名 Alters-und Pflegeheim Kühlewil 交流場所 集会場

交流対象 老人ホーム入居者60名

九州フレッシュメンコア・パスティアポプリはこの交流を楽しみにされていて、披露予定の歌を練習しながら老人ホームへ向かった。古い曲も含めて多数の曲を歌い、大変喜ばれた。そして全員ティータイムとなり、会話がとても微笑みであふれていた。最後にお礼としての合唱が披露された。とても充実した交流の午後であった。

花柳アカデミー

老人ホーム

日時 10月27日(月)14:30~17:00

老人ホーム名 Alters-und Pflegeheim Kühlewil 交流場所 集会場

交流対象 老人ホーム入居者60名

花柳アカデミーは7曲の日本舞踊を披露した。そのパフォーマンスはスイスの踊りとは全く異なり、曲が終わるたび熱狂的に大きな声で拍手喝采を花柳アカデミーに送っていた。その後、カフェテリアでのティータイムではいくつかの質問がされて、歓談を楽しんだ。この出会いを互いに楽しみとても素晴らしい交流時間であった。



剣伎衆かむみ featuring 小林未郁

武道交流

日時 10月23日(木)18:00~20:00

施設名 Zentrum für und Sportwissenschaft ZSSw

交流場所 講義室

交流対象 ベルン大学運動学部の学生15名

剣伎衆かむみは最初に「THE WAY of SAMURAI (剣道)」の説明をした。「映画の中の俳優」と「本当の武道家」との違いも説明した後、実演パフォーマンスを披露した。学生2人が代表で「刀」を使用した「エキサイティングな戦い」のワークショップも行った。講義室の学生全員が今回の講義をとっても楽しみ、数人の学生は東京で行われているワークショップにも参加したい、との希望もあった。



八幸会・結音の会

音楽交流

日時 10月24日(金)14:00~15:45

施設名 Musikschule Konservatorium

交流場所 音楽学校内音楽室 交流対象 ベルン音楽学校学生5名

八幸会がまず尺八演奏を2曲披露した。そして尺八の八幸会と箏の結音の会が合同で1曲披露した。その後学生が1曲はフルートとギター、もう1曲はピアノとフルートの合同演奏を披露した。予め日本側から送っていた楽譜の曲に合わせて、全員で合同演奏した。ソロ、合同演奏ともに素晴らしい演奏であった。学生は琴の弾き方を日本側から学び、八幸会・結音の会はフルートのことを学び、この交流を互いにとても楽しんだ。



八尾音・和萌会

音楽交流

日時 10月24日(金)19:15~21:15

施設名 Universität Bern Aula Muesmatt

交流場所 ベルン大学合唱部 音楽ホール 交流対象 ベルン大学合唱部の学生30名

八尾音・和萌会および学生はそれぞれの合唱を披露した。八尾音はピアノに合わせて少し踊りながら歌っていたのがとても印象的であった。いくつかの歌の披露の後、学生を踊りに誘い、一緒に踊り楽しい時間を過ごした。そして現地の言葉で4曲の歌を披露した。それらの曲を聴いた学生は大変喜んだ。とても微笑ましい音楽合唱交流であった。



シャルレモリモトファミリーズ

音楽交流

日時 10月26日(日)19:00~21:30
施設名 Hotel Allegro内 SZENARIO 1+2
交流場所 Hotel Allegro バンケットSZENARIO 1+2
交流対象 地元の音楽グループ FOLLCHLORE

双方のご挨拶の後、FOLLCHLOREの演奏がスタートした。彼らの楽しく心躍る演奏には手拍子で答えていた。次にシャルレモリモトファミリーズのエイサー太鼓の迫力ある演技にはFOLLCHLOREは大変興味をしめした。FOLLCHLOREは新婚カップルの為にお祝いの曲を演奏し、最後に軽快なスイス民謡に合わせて全員で踊り、会場全体に一体感が生まれエネルギーに満ち溢れた最高の夕べとなった。



愛知淑徳大学ウィンドオーケストラ

音楽交流

日時 10月26日(日)14:45~20:00
施設名 Proberaum de Knabenmusik (合同練習場所) Stadt Bern Erlacherhof
交流場所 Proberaum de Knabenmusik内音楽練習ホール
 Stadt Bern Erlacherhof市役所内ホール
交流対象 Musikschule Konsetrvatorium Bern音楽学校の学生50名

愛知淑徳大学ウィンドオーケストラは翌日のカジノでの演奏公演に向けて、合同練習および交流会を実施した。双方の紹介の後すぐに合同練習となった。事前に日本より楽譜を送っていたが、互いに初対面で言語が異なるにもかかわらず、すぐに練習出来たのは素晴らしい「音楽」の力を感じた。双方の指揮者により3時間の練習を終えた。その後市役所内に場所を移し、翌日の公演に期待を膨らませながら交流会を楽しんだ。

草木染工房しかり

草木染交流

日時 10月27日(月)13:00~16:30
施設名 Stadt Bern Erlacherhof
交流場所 Stadt Bern Erlacherhof市役所内ホール
交流対象 大人の生涯学習教室の生徒15名

草木染工房しかりは最初に草木染についての説明をした。ワークショップ参加者は豆汁を使用しての工程の説明に興味深く聞き、その作業も大変楽しんだ。草木染工房しかりは参加者に手ほどきをしながら教えていた。そして参加者は一人につき2枚のハンカチーフに草木染をすることができ、出来上がった「作品」に全員が喜び満足した。大変貴重な体験ができた充実した交流であった。



羽津の未来を考える会

料理交流

日時 10月27日(月)16:00~21:30
施設名 Ofenhaus **交流場所** Ofenhaus (地域住民が使用する山小屋風建物)
交流対象 地元のプロの料理家 Mr. Chris Bay および奥様と友人 計8名

羽津の未来を考える会は土鍋を使った料理の素晴らしさを現地の方に伝えるべく、この交流は企画された。珍しい日本の鍋料理の味に全員「美味しい」と舌鼓を打った。スイス料理も提供され、互いの料理を楽しんだ。雰囲気のある山小屋風建物での交流はとても楽しい夕べであった。

西日本友好親善訪問団 交流プログラム

日本語を勉強しているベルンの方々との訪問交流会と最新型トラム（LRT）チャーター乗車

日時 10月22日(水)・24日(金)・27日(月) **場所** 各ホテル→ベルン訪問交流会→最新型トラム（LRT）チャーター乗車

ベルンに到着した翌日は、ジャパンウィーク®の目的のひとつでもある国際親善交流の機会として、ベルン大学言語研究所の日本語コースで日本語を学ばれた方、また現在日本語学ばれている方との訪問交流会を開催した。交流会では何故日本語に興味を持ったのか、勉強した日本語を今後どのように生かしていきたいかという点を切り口にしたスピーチに、参加者一同興味深く聞き入った。スピーチの後は質問タイムとなり、日本とスイスの違いや、アニメや漫画といったサブカルチャーなどの話題も出て、あっという間の1時間30分が過ぎ去った。最後は参加各団体の代表がスピーチをしていただいたベルンの方々にお土産を手渡し、交流会は終了した。

交流会終了後は、地元ベルンでトラムやバスの運営を行っているベルン市交通局（BERN MOBIL）のトラム車庫へ移動。トラム車庫ではベルン市交通局の担当者から歓迎の挨拶とトラムの説明を受けるなど簡単なセレモニーを開催。その後参加者は今回のジャパンウィーク®用にチャーターした最新型トラムに乗車し、世界遺産の街並みを周遊しながらガイドの案内による車窓観光を楽しんだ。



ベルンナイト

日時 10月22日(水)・24日(金)

場所 「PAVILLON GURTEN」

今回ご参加いただいた西日本友好親善訪問団の参加者に感謝の意を表するとともに、地元とのより一層の親善交流を図るため、ベルンの旧市街が一望できるグルテン

山の頂上のパーティー施設「PAVILLON GURTEN」にて夕食会「ベルンナイト」を開催。日本側は22日が菊地憲一氏/株式会社日本旅行常務取締役兼執行役員西日本営業本部長、24日が丸尾和明氏/株式会社日本旅行代表取締役社長、現地側は22日がマルクス・レジエ氏/ベルン市観光局長、24日が前田隆平氏/在スイス日本国特命全権大使のご挨拶でベルンナイトが開

始。参加者の皆様にスイス創作料理をご堪能いただく一方、食事の合間には本場スイスのアルプホルン演奏をはじめ、スイスの民族衣装をまとったグループがコミカルで楽しいスイス民族音楽の演奏を披露し、会場の雰囲気を盛り上げた。そしてこの夕食会は盛況のうちにおひらきの時間となり、来年の開催地フィンランド、ヘルシンキの案内とともに終了した。





編集後記

この度のジャパンウィーク®開催にあたり、ベルン市関係者並びに実行委員会の受入協力に感謝申し上げます。また、ジャパンウィーク®運営を支えていただいた在スイス日本国大使館の皆様方に厚く御礼申し上げます。昼夜を問わず共にこの運営携わっていただいた現地コーディネーターそしてジャパンウィーク®の趣旨に賛同いただき、多忙にも関わらずボランティアとして携わっていただいた皆様、そして有形無形でご支援いただいた関係者の方々の協力なくして

無事終了することはできませんでした。ここに深く感謝申し上げます。日本全国からジャパンウィーク®の趣旨に賛同いただき、両国間の草の根レベルの国際交流に参加された皆様厚く御礼申し上げます。

今後も、真摯な相互理解・異文化理解の輪を広げて、世界が心一つになれるよう、ジャパンウィーク®を通じ貢献できれば幸いです。今後とも皆様方のご支援・ご協力を引き続きお願い申し上げます。次第です。



助 成



公益財団法人 双日国際交流財団

主 催



公益財団法人 国際親善協会

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-9-4 鴨原ビル 3 階

TEL: 03-5802-0351 FAX: 03-5802-0353

E-mail info@iffjapan.or.jp

URL http://www.iffjapan.or.jp